

折に触れ 四字熟語

NO. 146 『危急存亡』 ききゅう そんぼう

< 意味 > 危機が切迫して存続するか滅びる、生き残れるか死ぬかの瀬戸際のこと。

< 出典 > 諸葛亮 十八史略「(前) 出師表」

『漢丞相亮、率諸軍北伐魏。臨發上疏曰、今天下三分、益州疲弊。此危急存亡之秋也。・・・』

読み下し：『漢の丞相亮、諸軍を率いて、北のかた魏を伐つ。發するに臨んで、上疏して曰く、
今、天下三分し、益州疲弊せり。此れ危急存亡の秋なり・・・』

通 釈：漢の丞相亮が諸軍を率いて魏を攻撃することになった。出発にのぞんで、天子に文書（出師の表）を奉り、こう申し上げた。今、天下は三分し、わが益州は最も疲弊しております。まさに危急存亡のときであります。・・・

語 釈：「危急」は危険が迫ること。「存亡」は存続するか滅びるか、また、生きるか死ぬかの意。一般に「危急存亡の秋」と用いることが多い。秋は万物が実る季節であることから、大切な時の意。この熟語は個人よりも組織や集団の重大な局面についていうことが多い。

一 言：新型コロナウイルスの感染は日本だけではなく世界中に蔓延し、各国は必死で対応に追われています。まさに危急存亡のときです。

参照文献：三省堂「四字熟語辞典」 ネット「漢文塾」